

世界を感じるキャンパスで学ぶ

ダイバーシティとは、「多様性」を意味します。変化の激しい時代をたくましく生きる学生たちを育むダイバーシティ・キャンパスを創造します。

安心して学べる環境

2016年7月から留学生危機管理サービスに加入しており、派遣学生や受け入れ学生全員がこのサービスを利用しています。このサービスでは、24時間365日対応のコールセンターによる派遣学生の安否確認や医療機関対応、受診時の通訳サービスが提供されています。

また、受け入れ学生に対しては、留学生アドバイザーや学生による留学生サポーターを中心に学内外でサポートを行っており、その一環として「病院指差し英会話カード」が生まれました。

さらに、学食でのハラルフードの提供や文化交流用の部屋の整備など、多様な文化に配慮した環境作りも進めています。



留学生に対する英語プログラムの実施

来日時に日本語が話せない留学生でも安心して学べるよう、英語で受講可能な科目を多数設けています。これにより、留学生は日本語を習得していなくても、専門的な学びを深めることができます。さらに、英語での学術支援や相談サービスの充実を図ることで、留学生が言語の壁を感じることなく学業に専念できる体制を整えています。これらの取り組みは、より多様な学生を惹きつけるだけでなく、山口大学内での国際的な視点の共有や多文化共生の促進にも寄与しています。



大学の世界展開力強化事業（アフリカ）の採択による、アフリカからの留学生の増加

2020年度に文部科学省の世界展開力強化事業に採択され、アフリカ地域との連携を強化しています。この事業を通じて、ケニア、ナイロビ大学との教員・学生の相互交流を実施しており、これまでに多くの派遣、受け入れを行ってきました。学内では「アフリカフェア」や「国際協カトー

クショー」を定期的 to開催することで、学生や教職員にアフリカ地域への興味関心を喚起しています。また、全学対象の「課題解決力開発ワークショップ」を実施することで、アフリカに関する幅広い知識と課題解決力を養う機会を提供してきました。このような活動を通じて、近年、アフリカ地域の優秀な人材が山口大学で学ぶ機会が増え、学内の多様性が一層向上しています。

ダイバーシティ・キャンパスの実現に向けて

山口大学では、多様な価値観が共存する環境の実現を目指し、留学生が安全かつ安心して学べる環境の構築に取り組むとともに、海外オフィスを活用した広報活動の強化や海外同窓会の組織化を積極的に推進しています。さらに、留学支援体制を充実させるほか、英語による授業や、多様な留学プログラムを提供することで、様々な国籍、文化を持つ留学生の受け入れを促進しています。



JICA事業による多様な留学生の受け入れ

JICA（国際協力機構）との連携も継続し、途上国からの留学生を積極的に受け入れています。この取り組みは、グローバルな視点を持つ人材を育成することを目的としており、多様な文化背景を持つ学生同士が交流し合う環境を提供しています。JICA事業を通じて来日する留学生には、特別な研修プログラムや専門的な学習機会が提供され、彼らの母国での課題解決に寄与するスキルの習

得を支援しています。

また、学内外での交流イベントや地域住民との連携活動を通じて、多文化共生の理解を深める機会を設けています。



JICA国別研修の様子

海外オフィスを活用した連携

海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流を推進し、本学の情報発信を目的として、6か国・地域に国際連携オフィスを設置し、現地の優秀な学生の獲得に向けた広報活動や、本学派遣学生の留学支援

〈国際連携オフィス〉



を行っています。また、卒業生とのネットワーク強化や本学への派遣および海外広報機会の創出・充実を目的として、海外同窓会をこれまでに9支部設立しており、近年では2023年度にインドネシアとマレーシア、2024年度にタイで同窓会が開催され、卒業生とのつながりをさらに深めています。



タイ同窓会の様子